

第 45 回日本臨床心理学会大会 —第 3 報—

**第 45 回日本臨床心理学会大会委員長
氏家 靖浩 (東北文化学園大学)**

大会タイムスケジュールが決まりましたので、以下にお知らせいたします。

日時：2009年11月6日（金）～8日（日）

場所：東北文化学園大学（〒981-8551 宮城県仙台市青葉区国見 6-45-1）

	午 前	午 後	夜
11/6（金）			7:00～9:00 国家資格の現状
11/7（土）	9:00～10:00 個別発表 10:00～12:00 定期総会・総会討論 12:00～12:30 運営委員改選	1:30～4:30 スモールグループディスカッション 精神保健福祉、臨床教育学など ラウンドテーブルディスカッション コミュニティ支援など	5:30～8:00 情報交換会
11/8（日）	9:30～12:30 分科会 発達障害 医療観察法	1:30～4:30 特別公開講演 二木 文明（東北文化学園大学） 「作家の病跡にみるマゾヒズム、マゾヒズム的心性 —谷崎潤一郎と有島武郎—」	

※「個別発表」「ラウンドテーブルディスカッション」は会員より公募いたします。同CP紙3ページに募集要項が掲載されています。

※「スモールグループディスカッション（SGD）」とは、「提出されたテーマの一つに関心ある人々が同じ部屋に集まり、そのテーマの下で話してみたいサブテーマを数名が提示し、夫々のサブテーマごとに集まってつくられた小グループに分かれて討論すること」を想定しています。共通する大テーマの下でサブテーマに沿って様々な角度から議論しあい、最後はその部屋全体で小グループごとに発表しあう形を取ることで、テーマの深まりを図ります。タイムスケジュールとしては1:30～2:30 第1グループ分け、2:30～3:30 第2グループ分け、3:30～4:30 発表という形になります。

第19期（2009～2010年度）学会運営委員選挙に関する公示

第45回日本臨床心理学会定期総会（2009年11月7日）で、第19期学会運営委員の選挙を行います。学会会則第13条に基づき以下の手順で運営委員立候補の受付を行いますので、立候補希望者は応募して下さい。

- ・運営委員に立候補する方は、立候補理由と所信表明文（600字以内）を、2009年6月30日までに、〒110-0003 東京都台東区根岸 1-1-24 鶯谷日伸ハイツ 201 日本臨床心理学会事務局気付「学会選挙管理委員会」に郵送して下さい。
- ・立候補者の理由・所信表明は、臨床心理学研究第46巻2号に掲載されます。これに基づいて、討議より「第45回総会にて役員改選を諮り」、新運営委員が選出されます。

2009年4月5日

日本臨床心理学会選挙管理委員会

奥村 直史

森谷 就慶

日本臨床心理学会会則抜粋

第13条（運営委員の決定、定数）運営委員は本学会員が自主的に立候補し、同時に立候補理由を表明し、総会において運営委員の任務を遂行する意志を相互理解するための討論をつくした後に決定される。なお、原則として立候補表明は、総会に先んじる一定期間内に運営委員会が委任する選挙管理委員会あて文書で行う。選挙管理委員会は、それを機関誌、紙上で会員に周知徹底させる。

第14条（監事）監事は会員の中から総会時に選出され、総会で承認される。監事は運営委員を兼ねることが出来ない。監事は本学会の会務を監査する。

第15条（役員の任期）役員の任期は2年間とする。但し、再任を妨げない。

日本臨床心理学会を一緒に担いませんか？

日本臨床心理学会は、人々の抱える心理-社会的問題に関して、「その人と我々を含む関係軸の上で、その人の視点をふまえて一緒に考えることを大切にした臨床心理活動がどうあるべきか」を考え続けて来ました。その一方で「臨床心理職国資格化問題、医療観察法、障害者自立支援法、発達障害者支援法、特別支援教育など」様々な法律や制度について、「臨床心理学」の視点に立ってそこに孕んでいる問題を検討し、社会的に発信する活動をしています。ここ数年では、実際の臨床現場での活動の見直しや発展として「地域臨床」「ヒアリング・ヴォイシズ」などを、また社会的なテーマの検討として「医療観察法」「特別支援教育と発達障害」などを検討するといった活動を行なってきました。このような学会活動の原動力として、「学会運営委員会」があります。3ヶ月に一回の運営委員会では先に述べた様々な問題を討議し、学会としての提言をまとめる作業や、学会運営について様々な角度から検討しています。

学会運営をぜひ、一緒に考えていきませんか？ 一人でも多くの方の、第19期（2009～2010年度）学会運営委員への立候補をお待ちしています。

第18期日本臨床心理学会運営委員一同

大会個別発表・ラウンドテーブルディスカッション企画応募要綱

大会個別発表およびラウンドテーブルディスカッション企画を、以下の要領で公募いたします。希望者は下記の内容に従って、手続きをお願いいたします。なお、この件に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。

I. 個別発表（11月7日土曜日：午前9時～10時）

1. 個別発表者は日本臨床心理学会会員の方に限ります。
2. 個別発表者となるのは一人一回に限ります。ただし、連名発表者についてはこの限りではありません。
3. 発表時間は一人当たり、質疑応答を含め30分です。
4. 申込者は同封の申込用紙に必要事項を記入の上、1000字から1100字程度の個別発表要旨をプリントアウトした原稿を、2009年6月30日（火）必着で、学会事務局まで郵送でお送り下さい。
5. 発表の採否は、7月開催の運営委員会で決定し、2009年7月末日までに郵送にてご連絡いたします。発表が決定しましたら、提出いただいた「個別発表要旨原稿」を「臨床心理学研究」第47巻第2号（大会特集号）に掲載いたしますので、「個別発表要旨原稿」を事務局までメールでお送り下さい。

II. ラウンドテーブルディスカッション企画（11月7日土曜日：午後1時30分～4時30分）

1. ラウンドテーブルディスカッションは、テーブルに参加者全員が着いて、お互いに対等の立場で、企画者から提示されたテーマについての意見交換を行う場です。
2. ラウンドテーブルディスカッションの企画者は、日本臨床心理学会会員の方に限ります。
3. 申込者は同封の申込用紙に必要事項を記入の上、1000字から1100字程度の企画要旨をプリントアウトした原稿を、2009年6月30日（火）必着で、学会事務局まで郵送でお送り下さい。
4. 発表の採否は7月開催の運営委員会で決定し、2009年7月末日までに郵送にてご連絡いたします。発表が決定しましたら、提出いただいた「企画要旨原稿」を「臨床心理学研究」第47巻第2号（大会特集号）に掲載いたしますので、「企画要旨原稿」を事務局までメールでお送り下さい。

※ 個別発表・ラウンドテーブルディスカッション応募、問い合わせ先

住 所：〒110-0003 東京都台東区根岸1-1-24 鶯谷日伸ハイツ201 日本臨床心理学会
Tel&Fax：03-3847-9164（土曜日のみ。4月から変更になりました。）

第9回関東委員会のお知らせ

テーマ：公開シンポジウム記録『特別支援教育と発達障害』を読む

日本臨床心理学会関東委員会

昨年の徳島大会において、公開シンポジウム『特別支援教育と発達障害—その構造と論理の批判的検討—』が開催され、先日発行された『臨床心理学研究』46巻3号にその記録が掲載されました。その内容は、当日の司会者榎田氏が整理しているように、1. いささか混乱した「特別支援教育と発達障害」をめぐる現状があらわになったと同時に、2. アスペルガー当事者高森氏の問題提起を得た、という2点に要約されるように思います。

高森氏の発題は「＜人間としての承認＞＜共生＞＜理解＞＜支援＞＜社会参加＞は支援者が望んでいること？ アブノーマライゼーションのすすめ」というタイトルで行われました。彼は支援科学や障害学が自明の前提にしている理念に対して納得できず、そこに内包される問題群を「アブノーマライゼーション」と名付けました。いわく、「誰がどのような特権をもって障害者を人間と『承認』するのか」。いわく、「なぜ常に友好的で相互理解的な『共生』が求められるのか」。いわく、「なぜ障害者は『理解』されることを求めている、と思われているのか」。いわく、「なぜ学校や就労への参加が『支援』の方向として理想化されるのか」等々。そして「私は人間として承認されることを望まないし、障害のない「人」の中にいてもある「人」の中にいても違和感を感じる存在でありたい。」と話されました。

これはもちろん一人の当事者の考え・感じ方であり、他の人はまた異なる考え・感じ方をもつであろうことを前提に語られたものですが、「共生」「理解」「支援」等、私たちが日頃殆ど疑わずに目指したり取組んだりしていることに対するはっきりとした異論・違和感の表明であり、そのことをどう考えるのか、検討する必要があるように思います。

シンポジウムで他の3人の発題者は、各々の立場からの問題提起を行いました。高森発題への応答とそれに基づく議論は十分ではなく、後のフロアとの討論で議論の幅は広がりましたが、テーマの掘り下げには時間が足りなかったように思います。今回、高森発題を一つの軸にして昨年のシンポジウムで示された課題を整理し、議論を一步進めるための土台を準備したいと思います。あわせて、近年学会で取組まれた類似のテーマに関する議論も、可能な限り参照したいと思います。自明の前提を揺さぶる議論に、ぜひご参加ください。

日 時：2009年5月10日（日） 2:45pm. 受付 3:00～5:00pm.

場 所：精神障害者共同作業所 耕房「輝」（日本臨床心理学会事務局）

Tel&fax 03-3847-9164 IP-TEL 050-1092-1615

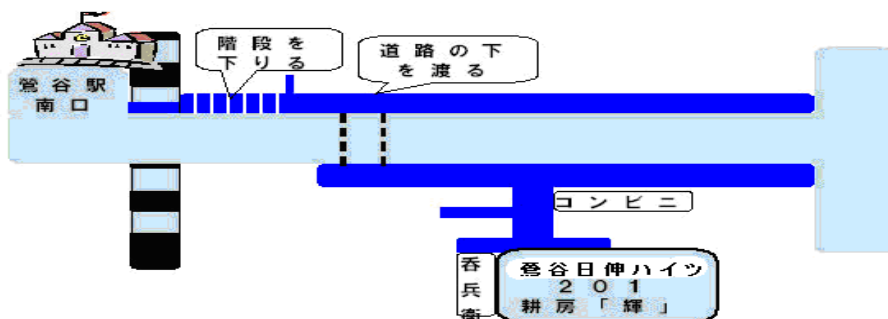
企 画：日本臨床心理学会関東委員会

話題提供：栗原 毅（学会関東委員会）

司 会：久能 徹（学会関東委員会）

参 加 費：500 円（どなたでもご参加下さい）

<会 場 地 図>



事務局からのお知らせ

1. 事務局開設日の変更

この度、約2年間事務局員としてお世話になりました眞島恵さんが、事務局を退職することになりました。新しい事務局員は宇田川恵美子さんにお願いしました。そこで2009年4月より、事務局開設日が変更となります。これまで事務局は「毎週月曜日午前10時～午後5時」に開設していましたが、4月4日より「毎週土曜日午前10時～午後4時」の開設となりますので、皆様、よろしくお願いいたします。

なお、その他の曜日は留守番電話対応となりますので、ご了承下さい。

事務局開設日：2009年4月4日より毎週土曜日午前10時～午後4時開設

2. 会費納入のお願い

今回、会費納入のための振込用紙を同封させていただきましたので、皆様、会費納入をよろしくお願いいたします。会費納入状況は、タックシールや封筒の下側に「最終納入年度の下2桁の数字」が印字されておりますので（「08」の方は2008年度まで納入されているということです）、それを参考に2009年度分会費と未納分を合わせてお振り込み下さい。

**郵貯銀行（郵便局）：00190-8-59797
みずほ銀行：稲荷町支店 普通 1784345**

なお、以前お知らせいたしましたように事務局の移転に伴って、これまで行ってまいりました「郵便貯金からの自動引き落とし」を中止いたしました。つきましては、本年度会費の納入は全て「振り込み」にてお願いいたします。振り込み先は上記となります。

また、2006年度までしか会費を納めていらっしゃらない方は2年間の滞納となりますので、2008年度末（2009年3月末）で自然退会扱いとさせていただきます。未納がある方は未納分をお支払いいただいた上、継続されるのか退会されるのかのご意志を事務局までご連絡下さいますよう、お願いします。

映画評

映画「精神」 監督 想田和弘 出演 「こらーる岡山」の皆さんほか

「精神」は岡山の精神科診療所「こらーる岡山」のドキュメンタリー映画です。135分間に「こらーる岡山」の活動が凝縮され、赤裸々に精神障害者の生活が描かれています。音楽もナレーションもなく、淡々と映像だけが流れています。そこでは、ナレーションも音楽も必要がない、生の精神障害者からのメッセージが込められています。ある部分は、精神科関係者からは「そこまでなくても」と感じた映像もあります。しかし、その場面から「精神障害」についての偏見・差別について考える機会を与えられたと感じる映画です。6月から順次全国ロードショウとのことです。

（藤本 豊 東京都立中部総合精神保健福祉センター）